

酵素医療の現場

医師 鶴見隆史



西洋医療はまさにロボットを見る感覚で人を診る医療であった。いわは「デジタル式ロボット医療」と言って良い。それゆえ、慢性疾患や予防医療には全く不向きである。何せ目先の対処に終始するやり方であり根本原因はそのまま手付かずのためにろくなことがない。慢性病にはほとんど薬漬けなのもただけでない。薬の連用で副作用だらけになるし毒の上塗りになるので後々さらに悲惨なことになりかねない。原因をただしてないのでどうしようもないのだ。

そんな中起こってきたのがオルタネイティブ・メディシンつまり代替医療というジャンルであった。

しかし結局この代替医療も西洋医療のやり方（病名診断即薬）でないだけで色々な医療の寄せ集めでしかなかった。代替医療といえばアーユルヴェーダ、中国医学（漢方）、鍼灸、カイロプラクティック、マッサージ、アロマテラピー、垢すり、各民族医療などだが、こういった医療にはそれぞれ長所はあるだろう。そうでなければ残ってはいない。しかし、部分的に使用するには良いかもしれないが、それで全て完治するかどうかと

なると疑問である。ただし、西洋医療など比較にならない良い方法があるのも事実ではある。しかしやはりこれだけで完治は決してしないことも確かだ。こういった医療は気持ちが良くなるのは有りにしても根治療法ではないからであろう。そこで見直しが始まった。2000年頃から、寄せ集めの代替医療ではなく統一感のある医療を目指すとして「統合医療」なる言葉が生まれ、統合医療学会も出来てきたようだが、これもパッとしない。その理由は簡単だ。統合医療といってもただ単に代替医療をまとめ上げただけで、ではどうすれば良いかがはっきりしなかったからだ。

さて、私の提唱している「酵素医療」は今まで大した勢力はないが、50年後、100年後は医療の中心として医学の中心となっているのではないかという気がする。いや、たとえ中心となっていないなくても、いつの日か中心として活躍すべき医療とならなくてはいいかと思う。それ程の医療だと思う。その理由は、何といてもつながりのある「アナログ的医療」つまり「根治医療」だからだ。「腸」という根っこを押さえ、原因を改善しエネルギーをつける医療だからだ。

体験談

絶望からの脱出

天明 淳子



私は、2011年の人間ドックで、子宮異形成と診断されました。その時は、3か月毎の健診を受けてくださいと言われ、3か月毎の健診を病院で受けていたのですが、だんだん悪くなり、1年後に、がんの0期と診断され、手術が必要だと医者に言われました。「手術はしたくないのですが。」と言うと、「手術以外に治療方法はありません。それが治療です。」と言われ、さらに、「どこまでがんが進行しているかわからないので、いったん切って検査し、さらに足りなければ、また手術して切ります。」とも言われました。1回でも大変なのに、何回も手術をしなければいけないのかとショックでした。

がんに関する本を20冊くらい買って読みあさりました。鶴見先生のお名前は知人から伺っていたのですが、鶴見先生の「真実のがん治しの秘策」を読んで、がんをどう治したか本当に詳しく書いてあり、びっくりしました。鶴見先生にぜひ診ていただきたいと思い、鶴見クリニックを予約するために3台の電話を用意して予約しました。そのころ、予約できる日が1日しかなく、そこで電話がつかならなければまた翌月ということになっていて、奇跡的に10時のスタート時間と同時につながり、これで命が助かったとホッとしました。

皆様もご存じのように、鶴見先生は大変丁寧で、たくさんのことを教えていただきました。先生のご指導のとおり、食材、調味料をすべて変えました。特に食材は今まで無農薬無肥料のものがよいとはわかっていても特に意識せず、安ければよいということで、普通のスーパーで買っていました。また、調味料も同様です。しかし、鶴見先生から何から何までご指示があり、最初は大変でしたが、その意味が途中でわかりました。無農薬無肥料の野菜は本当にパワーがあります。食べる魂を感じます。また、調味料も本物のものはおいしいですし、体にやさしいと感じるようになりました。

ファスティングを実行する上で一番大変だった

たのが、宴会の時です。会社の宴会では、野菜しか食べれないということで、5000円の会費を出して、さしみのつましか食べれない時もありました。また、営業職ですので、外出も多く、鶴見式で作った内容のお弁当を公園とかでよく食べましたが、公園がないところなどは、意を決してトイレで食べていました。通常のレストランでは当たり前ですが、食べると怒られるのですね。病気がだと言っても食べることができないところが多かったです。

そういう苦労もしながら、鶴見先生から指示されたファスティングメニューを忠実に実行し、1年後の検査では、細胞が正常に戻ったので手術をしなくてよいという診断がされました。やった！と天にも昇る気持ちでした。人間ドックで診断された際に緑内障も診断されましたが、こちらも同じように行い、進行がなく、現在にいたっています。

ファスティングを実行して、約1年でピーク時より10kgも減り、洋服もほとんどウエストを詰めるなど修理をしなければならなくなりましたが、体も軽くなりとても楽になりました。病気になる前は疲れて鉛のように重かった身体が、あまり疲れず、体もいつも軽いと感じられるようになれ、毎日が快適で本当にうれしいです。

ファスティング以外で注意したことは、身体を